



【審査証明番号／有効期限】	BCJ-審査証明-284/2026年1月21日
【技術の名称】	基礎構造体に用いるメッシュ型枠パネル工法「ユニットラス」
【依頼者（審査証明取得者）】	トーテツ産業株式会社 東京鉄鋼株式会社

【技術概要】

ユニットラスは、在来木製型枠工法（以下、在来型枠）や在来ラス型枠工法とは異なる基礎構造体を形成するラスパネル型枠工法である。

ユニットラスは全て受注生産でパネル形状に工場加工されるため、現場での加工を不要とし、簡単な組立てのみで設置が可能である。また、せき板が鋼製メッシュ（以下、ラス網）のため軽量であり、コンクリート打設後の脱型が不要であるため、少人数での施工や現場での工期短縮を可能とする。

【開発の趣旨】

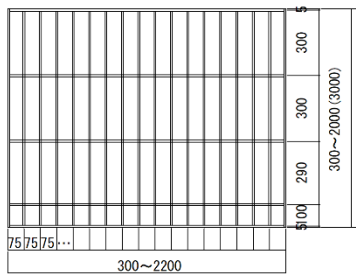
近年型枠工事において、型枠職人の高齢化や人材不足の要因で省力化のニーズが高まっていることから、脱型のいらぬ打ち込み型枠に着目しラス型枠が省力化に有効な手段と考えた。また、鉄筋や機械式鉄筋接手を使用した鉄筋プレハブ工法との一体化を視野に入れ開発を行った。

【開発目標および審査証明結果】

本技術について、上記の開発の趣旨及び開発の目標に照らして審査した結果は、以下のとおりである。

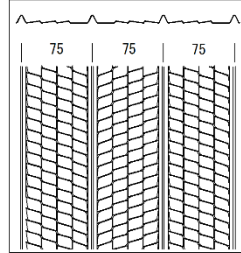
- (1) 型枠工事に使用するための施工要領書を整備し、施工要領書に基づいて施工することにより、所定の精度を確保する構造体を構築できるものと判断される。
- (2) 本工法に使用されるラスパネルはコンパクトで軽量であるため、資材置き場の削減と運搬の効率化が図れるものと判断される。
- (3) 型枠材の大部分を工場生産とすることで現場での加工を減らし、打設後の型枠解体を不要として工数の削減を図れるものと判断される。
- (4) 施工要領書に従い施工したユニットラスの硬化コンクリートの強度は在来型枠の硬化コンクリートの強度と同等であるものと判断される。
- (5) 鉄筋プレハブ工法とユニットラスとを一体化して建て込むことで、現場の工期短縮や掘削土量、埋戻し土量を削減できるものと判断される。

パネル形状（梁、柱、ベース 共通）

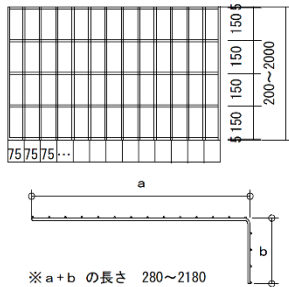


※H寸法が2000を超えた場合、L寸法の最大は2000とする

網目詳細

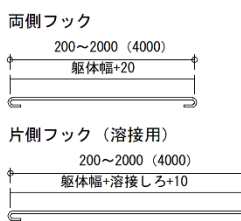


梁底パネル



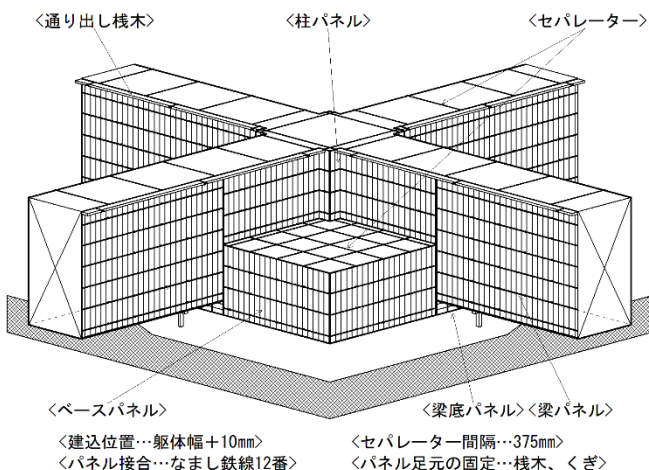
※ a + b の長さ 280~2180

セパレーター



※ 〇 規格外対応可能寸法

【ユニットラス製品仕様】



【ユニットラス標準納まり図】

【本技術の問合わせ先】

トーテツ産業株式会社 営業部

TEL : 0285-27-2339

技術紹介サイト

<http://tohtetsusangyo.co.jp/>

